

日本神経精神薬理学会 50周年「記念誌」のコーナー

Previewも本号が最終となりました。

今回は会員の皆さまから寄せられたメッセージのうち、日々の臨床・研究の中から生まれたエッセイのタイトルをご紹介します。また、温故知新を旨とする「記念誌」としまして、学会草創期に大きな貢献をされた4名の先駆者の業績を振り返り、近年の学会の活動として重要な社会への発信についてご紹介します。

2020年7月27日
50周年記念事業Working Group
「記念誌」編集担当

「記念誌」Preview～JSNPの50年と共に

会員の皆さまから寄せていただいたメッセージのうち、「ラボから、ベッドサイドから」のサブタイトルのもとにまとめられる14篇のタイトルを紹介します。内容は「記念誌」にご期待ください。リストは五十音順です。敬称は省略しました。

日本版精神科ブレインバンクの過去・現在・未来
～地道な研究リソース蓄積活動と神経薬理研究の活性化にむけて

疼痛緩和における神経精神薬理学の寄与

女性特有のうつの薬物療法

神経精神疾患研究における課題：精神疾患の不確定性についての考察

神経精神薬理学におけるマイクロダイアリス法の意義と将来

再生医療は細胞から薬の時代へ

～再生誘導医薬による内因性神経幹細胞の増加とアルツハイマー病治療

保健医療福祉分野における(神経精神)薬理学教育研究の醍醐味

薬物依存症の神経精神薬理学

抑制性神経伝達物質と精神神経疾患

今後の精神神経疾患領域における医薬品開発について

～Next 50-year perspective

精神神経疾患治療薬開発におけるreverse translational researchの重要性

精神疾患の動物モデルという「魔物」

科学の目と医師の心

臨床と研究

学会の先駆者たち (1)

岩原信九郎先生 (1923～1978)



岩原先生は豊橋市のお生まれ。東京文理科大学心理学科をご卒業され、ミズーリ大学にご留学。奈良女子大学を経て東京教育大学(筑波大学)教授をおつとめになった心理学者です。1971年に精神薬理談話会を立ち上げられました。ノンパラメトリック統計学を日本に紹介した先駆者でもあります。Chlordiazepoxideの行動薬理や海馬の神経活動について広範な研究業績をあげられました。写真は廣中が持っているご著書『生理心理学』(星和書店)に掲げられているものです。

小林司先生 (1929～2010)



小林先生は弘前市のお生まれ。東京大学医学部をご卒業され、ピッツバーグ大学にご留学。神経研究所を経て上智大学カウンセリング研究所の教授をおつとめになった精神科医です。精神薬理談話会立ち上げの功労者です。小林先生は日本で最初期にクロルプロマジンとレセルピンを処方された医師のお一人で、談話会設立以前に『新精神薬理学』という大著をご執筆になっています。写真は鈴木勉先生からご提供いただきました。

学会の先駆者たち (2)

田所作太郎先生(1927～2011)



田所先生は前橋市のお生まれ。前橋医専をご卒業され、群馬大学医学部助教授時代にミシガン大学にご留学。群馬大学医学部教授時代に行動医学研究施設を立ち上げられ、日本の行動薬理学の基礎を築かれました。赤城の合宿が多くの方々の印象に残っていることはすでにお伝えした通りです。その後日本アルコール医学会会長、群馬県立医療短期大学(現在の群馬県立健康科学大学)初代学長なごのご要職を務められました。『薬物と行動』(ソフトサイエンス社)など多くのご著書があります。写真は廣中が田所先生からいただいたものです。

柳田知司先生(1930～2016)



柳田先生は足利市のお生まれ。東京慈恵会医科大学をご卒業され、ミシガン大学にご留学。薬物依存研究の基礎を築かれました。精神薬理談話会立ち上げの功労者です。帰国後は川崎市野川の実験動物中央研究所に医学研究所(のちの前臨床医学研究所)を立ち上げられ、依存性試験をはじめとする非臨床試験の確立に大きな功績を上げられました。日本アルコール医学会、日本臨床薬理学会など多くの学会・研究会の創設にも貢献されています。写真は2001年にミシガン大学のJames Woods教授を横浜にお迎えしたときのものです。

以上は鈴木勉先生からご提供いただいた資料に基づいています。詳しくは「記念誌」本編をご覧くださいお・

JSNPの情報発信

学会として社会に情報発信することはとても大事な事業であると思います。近年JSNPは他学会等と協力して多くの発信をしています。学会のホームページにはその実績が掲載されています。その一部をご紹介します。

2012	トランスレーショナルメディカル・サイエンス委員会設置
2013	精神病克服に向けた研究推進の提言
2014	高齢者の向精神薬服用と自動車運転に関する要望 (厚労省に)
2016	統合失調症薬物治療ガイドライン
2016	ラモトリギンに関する連名ステートメント
2016	クロザピンに関する要望 (厚労省に)
2017	クロザピンのモニタリングサービス基準に関する要望書 (適性使用委員会に)
2017	NHK番組「ガッテン！」の内容に関する見解
2018	精神疾患の克服と障害支援にむけた研究推進の提言
2020	臨床試験に資する精神・神経疾患データベース構築と人口 知能を用いた診断補助・ビッグデータ解析に関する産学官 連携の提言

Previewはこれで終わりです 長い間ありがとうございました

前回のクイズの正解を申し上げます。小林先生と田所先生に共通の特技。それは**エスペラント語**です。小林先生は日本エスペラント学会の顧問。田所先生は「高等エスペランティスト」の免許をお持ちでした。国際的な視座をお持ちの先駆者にJSNPは支えられてきたのだと思います。

さて「記念誌」ですが、右のような構成です。ファイルはすべてPDFですが、全体のサイズが大きいため、各章および節の単位でご覧いただけるよう、JSNPのWEBページ内に特設ページを設けていただく方向で検討しております。多くのアクセスをいただきますようお願いいたします。また、この場を借りて資料のご提供やご執筆にご尽力いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

「記念誌」は7月末に公開予定です。

巻頭言

記念シンポジウム抄録

海外からのメッセージ

皆様からのご寄稿

学会運営に携わられた方々や会員によるエッセイ

資料編

学会の歩みや
思い出の写真など